



発行日：平成 28 年 5 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 30 回海部会 WG を開催しました！

4 月 27 日（水曜日）に第 30 回海部会WGが東幡豆にて開催されました。今回の WG では、今年度の活動の進め方について意見交換を行った後、造成干潟の現地視察を行いました。



日時：H28 年 4 月 27 日（水） 13:00～15:30  
場所：東幡豆漁業協同組合事務所（会議室）  
参加者：16 名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1：本日の話し合い



##### ■今年度の活動計画について

- 中学生を対象としたプランクトン調査など、次世代を担う地域の人材を取り込むことを目的としたイベントを企画していきます
- 三河湾の海の水質に関する課題や現況データに関する情報共有を目的とした勉強会を開催するとともに、水質改善に関する他地域の取組事例などの情報も共有していきます。
- 海の環境に関する外部への情報発信と流域圏内の人材交流を目的に、山の子供たちを招待するイベントを企画していきます
- ダム砂を活用した人工干潟について、今後も事務局が主体となってモニタリングを実施するとともに、部会としても定期的に現状を監視していきます。



#### 2：ダム砂を利用した造成干潟の現地視察について



- 造成干潟内の砂を掘り返したところ、アサリをはじめ多くの生物が生息しており、特にアサリは秋に確認したときよりも大きめの個体が多く確認されました。
- 造成干潟内の砂は波浪によって、流出、堆積を繰り返しており、動的な環境条件の中で生物の生息環境として良好な状態が維持されていることがわかりました。





### ●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

#### (1) 平成28年度のワーキングの活動方針について

- 小学生を対象とした干潟の観察は現在石川組合長が実施されているものをイメージしているか？(青木)
  - ▶ はい。(事務局)
- 東幡豆小学校を対象に観察会を実施しているが、今後は海のプランクトン調査なども実施していきたい。観察会の対象も保育園や小学生だけでなく、中学生なども対象として実施していきたいと考えている。中学生になると地域とのつながりが途切れてしまうため、何らかの関わりを持っていきたい。(石川)
- 船で海に出て、海水を採取するのは大変なので、堤防から採水するスタイルがよい。プランクトンは本当に研究ができると非常に興味を持つ人もでる。(石田)
- 水産試験場が出前講座を実施しているが、こういうイベントを利用して、幡豆の海の豊かさをアピールできればよいと考えている。(石川)
- 「砂の駅」について、根羽村、平谷村、串原村、豊田市の旭などの子どもが海へ砂を持ってきて、海で遊んで帰るといったイベントができると一石二鳥ではないかと思う。(事務局)
- 海の子を山へ連れて行くイベントもやるとよいのでは。子どものイベントは、皆さんそれなりに意義を感じるし、子どもも喜んでくれればというところがある。(石田)
- 新たにイベントを実施しようとする、準備が大変なので今年は準備の年という考えもある。(事務局)
- 海域では硫化水素の発生が喫緊の課題と水産試験場はおっしゃっているが、試験場から今はどんなことをやっているとか、そういう情報が出てこない。今回のテーマもごみや砂になっているが、片方で喫緊の課題と言われているのであれば、もう少し情報を出してほしいという思いがある。自分は宍道湖で研究を実施しており、ぜひそういう情報も共有したいと思っている。(井上)
  - ▶ 今年は勉強会を企画して、井上さんの宍道湖の話もしていただき、また水産試験場や水産省が実施した事例などを紹介してもらおう場を設けてもよい。(青木)
- 鈴木副座長からの話で「三河湾も冬場、貧栄養で餌がない状態が課題になっている。何とかしていくために、みんなにも考えてほしいという」という意見をいただいている。(事務局)
- 水産の観点からは貧栄養で餌がない状態が課題となるが、環境の観点からは一つの目標があって、この程度まではきれいにしないと、という話もある。きれいなのがよいか、豊かがよいか、しっかり議論したい。(井上)
- 環境の観点から『きれい』の目標という話であるが、今貧酸素が問題となっている。貧酸素は動物に対して直接死亡させるというか、餌が少なくなるため、それを基準にしようというのがほぼ決まっている。そういう意味では、決して環境と生物生産が矛盾した状態で走っているわけではなくて、生物生産にとっての必要性が重視されるようになってきている。(石田)
- 今後、矢作ダムや河川の砂を持ってくる計画というのは具体的に何かあるか。(平岩)
  - ▶ 掘削予定はあるが、関係機関と継続的に話し合いをしていく必要がある。(事務局)

#### (2) 造成干潟の環境調査結果の報告

- 3月に水質、底質および底生動物調査を実施しており、水質および底質は正常な状況であり、生物についてはアサリの確認数が全体の個体数の7割強を占めていた。アサリのサイズは平均で2~3グラムの稚貝が主体であった。(事務局)
- 着底稚貝について調査を実施する予定はあるか？(石田)
  - ▶ 春の調査で実施する予定である(事務局)

### 今後の流域圏懇談会の予定

次回 海部会第31回WGの開催については6月に開催します。

#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。